

琵琶湖定点定期観測結果速報(令和2年5月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご注意ください。

調査年月日 令和2年5月11日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 …… 5地点の平均値

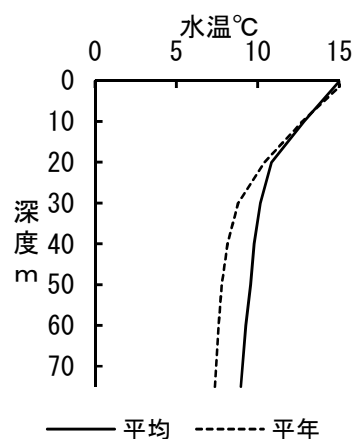
平年値 …… 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1981年～2010年(昭和56年～平成22年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2010年～2019年(平成22年～平成31年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 5月平均値 5.3m 平年値 4.5m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	5月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	15.0	15.3	-0.3
10	12.8	12.7	+0.1
20	10.9	10.4	+0.5
30	10.2	8.8	+1.4
40	9.8	8.2	+1.6
50	9.6	7.8	+1.8
60	9.3	7.6	+1.7
75	9.0	7.4	+1.6



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
4月下旬	12.9	12.4	+0.5
5月上旬	15.2	14.0	+1.2
5月中旬	16.3	15.2	+1.1

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	5月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	47.0	15.6	+31.4
10~20	10.7	4.2	+6.5
20~40	2.1	1.4	+0.7
40~75	1.1	0.5	+0.6

(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、全ての地点で*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)が量的にも細胞数でも最も多く確認された。

動物プランクトンについては、全ての地点でCyclopidae(ケンミジンコ科:カイアシ類)と*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生および*Kellicottia longispina*(トゲナガワムシ:ワムシ類)および*Synchaeta sp.*(ドロワムシ属:ワムシ類)が多く確認された。



Fragilaria crotonensis



ノープリウス期幼生



Kellicottia longispina



Synchaeta sp.

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	5月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	11.56	(118.1)	11.07	(114.4)	0.49	(+3.7)
10	11.14	(114.5)	11.16	(109.0)	-0.02	(+5.5)
20	10.31	(95.6)	10.81	(99.8)	-0.50	(-4.2)
30	10.09	(92.6)	10.60	(94.7)	-0.51	(-2.1)
75	8.57	(76.4)	9.42	(81.1)	-0.85	(-4.7)